

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726

yoshidaben@gmail.com



成瀬クリーンセンターと微生物

成瀬クリーンセンターを見学しました。町田市は東京都大半が参加する流域下水道に加わらず、単独で下水の処理を行っています。その町田市は人口の43万人の99%が排出する汚水を、鶴川と成瀬の2ヶ所で浄化しています。

成瀬クリーンセンターの施設は、町田市内で恩田川の川下の成瀬地区にあり、52,400㎡の広さを持ち、1977年から稼働しており、最大252,200人を対象にするものです。下水処理場は大きな建屋になっており、その中に大きな連続する沈殿池と反応タンクが配置されていますが、基本的に無人で、集中管理室にいるオペレーターが遠隔操作、目視をしています。私たちが見学する際も場内は無人でしたが、日々の点検や故障時に職員や機械メーカーの人員が対応しているそうです。ただし、下水処理の主役は、反応タンク内の微生物(バクテリア)であり、その活動を間断なく支え、最適状況を作るのが人の役割と思いました。



発生する汚泥を処理する工程部分で撮影。その他、水の検査部門があります。

大地沢青少年センターの今後

1978年に開設され、市民になじまれているのが、大地沢青少年センターです。場所は、町田市の西端、大戸地区にあります。施設は、本館やバンガローに宿泊でき、テントを張るスペースも確保されています。野外の炊飯設備や本館内に調理場も備え、それぞれ自炊の食事がとれるスペースがあります。その結果、夏休みなどは満杯になっています。ただし、他のアウトドア施設が多様化した、この施設の冬季期間の利用手段が制限される、あるいはオートキャンプの施設は備わっていないなどの面もあり、利用者数の減少が顕著になってきています。



市では、直営施設でこの大地沢青少年センターの利用者増を図るため、施設利用者の対象幅を広げたり、利用目的の変更を加える手段として、「指定管理者」を指定する準備を進めてきました。今度の議会では是非を決める段階に来ました。この日は、大半の議員が参加して、施設見学に来たものです。本館以外にも、周辺に展開した施設の大半を見て回りました。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう！(新スローガンを提起しました)

◎支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

◎吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、夏季の第50期生がスタート

インターン体験記①下津陽菜乃

今回は神楽坂にある「青森県つがる市東京事務所」に伺いました。まず、私は青森県といえりんごのイメージが強かったため、メロンが特産品であることを知りませんでした。青森県には旅行で訪れたことがあったのですが、まだ知らない魅力があったことに気づきました。

青森県つがる市東京事務所さんは、1階ではショップを、2階では「果房 メロンとロマン」を運営しており、3階に事務所があります。今回私たちは、果房 メロンとロマンさんと生メロンのフルーツサンドとメロンジェラートフラッペをいただきながらお話を聞かせていただきました。主に20代から30代の女性をターゲットにしているそうです。しかし、男性のお客さんも多く来店されているようで、私たちが訪問した際も先に男性のお客さんがメロンクリームソーダを注文されていました。



青森県つがる市の特産品のひとつであるメロンのことやつがる市でメロン農家を営む女性について、市の課題である人口減少についてや世界遺産でもある三内丸山遺跡についてのお話を聞かせていただくことができました。今回の訪問で青森県と青森県のメロンの魅力について知ることができ、この魅力がもっとたくさんの人に知られて欲しいと思いました。

インターン体験記②下津陽菜乃

今回は八王子市役所の資源循環部廃棄物対策課の方々からお話を伺わせていただきました。八王子市は中核市に移行したことにより廃棄物処理の役割を一般廃棄物だけではなく、産業廃棄物に関する事務も管轄するようになったそうです。これにより、一般廃棄物に関する出し方などの相談だけではなく、産業廃棄物の処理の仕方についての市民や事業者からの相談にも迅速に対応できるようになり、廃棄物処理全般を一元的に管理できるようになったそうです。

廃棄物処理について様々なお話を聞かせていただいた中で、私が特に興味を持ったのは他自治体と連携し、適正処理のための指導・啓発を行っているということについてです。産業廃棄物の不適正処理や不法投棄に対しての、規制や指導も行えるようになった八王子市は首都高速道路などで市役所職員が警視庁や首都高速道路職員と連携し、道路交通法や廃棄法に違反していないかの調査や過積載調査を行っているそうです。不法投棄は環境問題にもつながるのでこのような調査によって不法投棄が少なくなっていくことが望まれます。環境経済について学ぶゼミに所属している私にとってとても興味深いお話を聞かせていただくことができました。



昭和女子大学3年下津陽菜乃(第50期研修生)

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2022年4月末より50期生が研修を開始しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

◎夏季のインターンシップは引き続き第50期生となりますが、合計3名が参加予定です。